

# 子宮がん検診を受けられる方へ



## ◎子宮がん検診(細胞診)について

### 《 子宮がん検診の検査方法 》

当センターでは主に子宮頸がん検診として『内診・視診』『子宮頸部細胞診検査』を実施しています。

ご希望があれば、内診・頸部細胞診検査とあわせて以下の検査をご案内しています。

- ・子宮体がん検診(子宮体部細胞診検査)
- ・HPV 検査(子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルスへの感染有無)
- ・経膣超音波検査(膣からの超音波検査で子宮や卵巣などを観察することで、内診より正確な診断が可能)

### ◆ 内診・視診

内診は、片方の指を膣内にいれ、もう片方の手で腹部を押さえてはさみながら触診する検査です。子宮や卵巣を診察します。視診は、膣鏡(クスコ)を挿入し、子宮頸部の状況やおりものを観察します。

### ◆ 頸部・体部細胞診検査

がんの発生しやすい子宮の粘膜を専用のブラシでこすって細胞を採取し、顕微鏡で観察します。がん細胞が見つかる前に異常な細胞が見つかることがあるため、細胞診を行うことでがんになる前の段階から診断することができます。

☆細胞診検査の結果は『A: 異常なし』『C: 要経過観察』『D1: 要医療』『D2: 要精密検査』と判定されます。

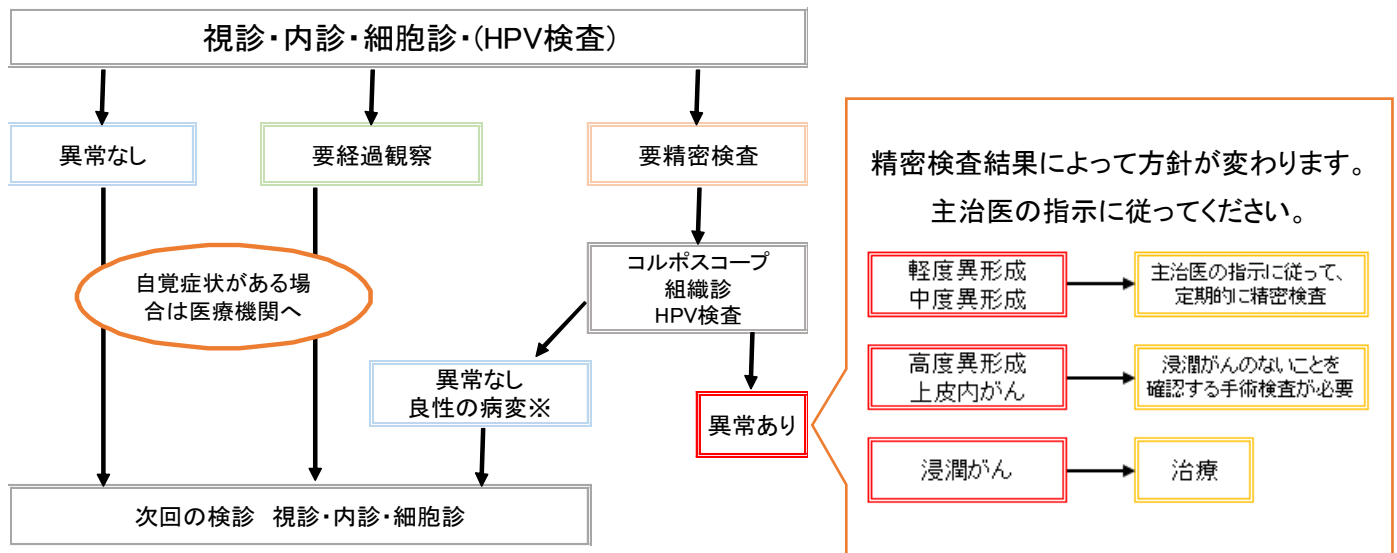
※『E1: 主治医要相談』『E2: 主治医要観察』の場合は、かかりつけ医にご相談ください。

A: 異常なし	検査の範囲では異常を認めません。今後も検診を受け、異常がないか確認していきましょう。ただし、自覚症状がある場合は医療機関にご相談ください。
C: 要経過観察	すぐに精密検査が必要な状態ではありませんが、異常が認められるため経過を見ていく必要があります。ただし、自覚症状がある場合は医療機関にご相談ください。
D1: 要医療	治療が必要と思われる状態です。医療機関を受診してください。
D2: 要精密検査	がんなどの病気の可能性があるため、更に詳しい検査を受ける必要があります。要精密検査となったとしても必ずしもがんや前がん病変というわけではありませんが、必ず精密検査を受けてください。

### 《 子宮頸がん検診(細胞診)精密検査の内容について 》

#### ◆ コルポスコープ検査

子宮頸部を拡大するコルポスコープ(膣拡大鏡)という検査機器で細かい観察をします。組織診とあわせて診断します。



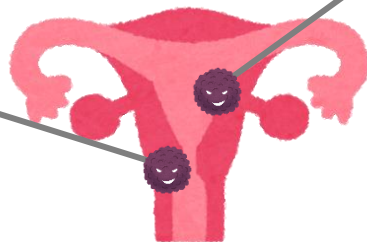
※ 良性と診断された場合は医師の指示に従ってください。

## ◎子宮がんとは？

子宮がんは発生する場所によって『子宮頸がん』と『子宮体がん』の2種類に分けられます。

### 子宮頸がん

子宮頸部の入口である外子宮口周辺に発生することが多いがんです。通常、一定の時間をかけてゆっくりと増殖します。がん発見前の段階として、子宮頸部の組織にがんに行進する可能性がある細胞が増えていきます(異形成)。定期的に検診を受ければ、がんになる前の異形成の段階で発見が可能です。



### 子宮体がん

子宮体がんは、子宮内膜から発生することから、子宮内膜がんとも呼ばれます。子宮体がんは40歳後半から増加し、50歳～60歳代で最多となっています。

※2020年の統計では女性の罹患数第5位で、28,492人が罹患され、80人に1人が一生のうちに『子宮がん』と診断されています。また、子宮頸がんは20歳代～30歳代の患者が増加しています。2023年の統計では、7,137の方が子宮がん で亡くなっています。

## 《 子宮がんのリスク 》

### ● 頸がん

- ①ヒトパピローマウイルス(HPV)の持続的な感染    ②妊娠・出産回数が多い    ③喫煙者

HPVは性交渉により感染します。通常はウイルスに感染しても、免疫機能により排除されますが、ウイルスが排除されずに長期間感染が続く場合があり、その結果として細胞ががん化することがあります。

### ● 体がん

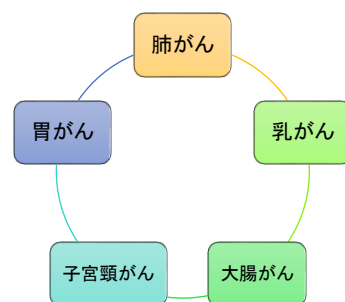
- ①年齢(高齢)、閉経が遅い    ②妊娠・出産経験がない    ③肥満    ④糖尿病等の生活習慣病  
⑤エストロゲン単独の服薬    ⑥タモキシフェン(乳がん治療薬)の服薬

## ◎がん検診を受ける目的は？

がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療へ早期につなげ、がんによる死亡率を減少させることです。

これまでの研究によって、胃・肺・大腸・乳・子宮がんの5つのがんは、それぞれ特定の方法で行う検診を受けることで早期に発見が可能となりました。また、早期のうちに治療を行うことで死亡率が低下することが証明されています。

ただし、全てのがんが発見されるわけではありません(偽陰性)。また、検査で要治療・要精密検査と判定がでて必ずがんや前がん病変というわけでもありません(偽陽性)。2年に1回、定期的に検査を受けることによって、早期発見に努めましょう。



※精密検査結果は富山市医師会健康管理センターも把握し、精度管理や今後のがん検診に役立てて参りますのでご了承ください。

### 富山市医師会健康管理センター

〒930-0951 富山市経堂4丁目1番36号 TEL:(076)422-4811 FAX:(076)422-4816

E-mail:kenshin@po5.nsk.ne.jp ホームページ:http://www.tcma-kenkou.com/

